

本書は新に出来た國定教科書の高等一年用の地理書の挿圖百〇九個について、景觀地理的に詳細な説明を加へたものである。同科受持の教員諸君は本書を讀むことによつて、いかやうにこの挿圖を讀み且つ之を教えうるかを學ぶことが出来るのみでなく、小學校の地理科教員にして、更らにかうした方法で他の地理の讀本を教授する多大の參考を得られることゝ信ずる。著者自ら從來の刊行された挿繪の解説等すべて名所案内式で記載萬能であるのに代へ、挿圖によつて自然と人文との綜合した文化景觀をその取扱の對策とした。本書は、僭越ながらこの種の著作の劃時代的のものだと自負されてゐることは予も亦妥當であると信じ、敢て本書を江湖にすゝめる。(藤田)

## 雜報

### ○國産桐の缺乏

桐材は割裂し難きこと、吸濕力の少きこと、燃焼し難きこと、糊着の良き事、狂の少きこと、輕軟なること等の特色があるために履物から家具指物に用ひられる。故に内地七千萬人の中五千萬人が桐下駄を一年に二足宛消費するものとすると二千萬圓、箆筒其他家具指物類等で五百萬圓、火鉢・琴・桐紙・建築等に二百萬圓を消費するから約二千五百萬圓内外の需要がある。所がこの桐材の供給が近頃

になつて激減してきた。蓋し一面に於て支那桐の輸入が内政のために、或は従前の亂伐のために、殆ど其輸入をたつたからでもある。支那桐の輸入は明治廿七八年の戰役で皇軍が威海衛を占領するや、御用商人が桐材を發見して之を輸入したのが最初で、當時は二十五年生以上四、五十年生の桐材の立派なものが來たが、大阪では用ひたけれども、東京の方は國産桐が豊富であつたから使用されず、一向其輸入が進まなかつた。所が明治四十五年頃に國産桐の品薄といふ現象が生じた結果、支那産芝罘桐の輸入が再興し、青島からも良材が出だしたので大正二年頃から八年へかけて支那桐の輸入は最盛期に入り、毎年二千數百萬斤其價格五百餘萬圓の輸入を見た。しかし大正九年のパニック以後相場の大暴落により奥地買出しの桐材商はすべて破産してしまい、昭和六年以後になると關稅の引上げにより支那桐輸入は採算不能となり、さしも旺盛を極めた支那桐も、一場の夢となり、目下芝罘青島産を合し年額二三百萬斤、三、四十萬圓に降つてゐる。面白いことはさうした支那桐輸入の際には所謂好景氣であつたが、日本國産桐の方も相場が上昇し大正三年頃三圓の丸太が六圓にもなつて景氣がよかつたから、其産出も多く大正三年頃には全國で毎年二百九十萬本からの植栽を實行したが、八九年の好景氣時代には桐の價の高いために一年に四百八十八萬八千餘本を植ゑるといふ素張らしい時代を出現した。然るに俄かに不景氣はくる、東京の震災で市場は滅入る、昭和四

年頃に右の同じ丸太が二圓以下に低下し、昭和八年には一圓八十錢にも下落したので、山元の方では桐を作ることを中止して仕舞ひ、昭和四年には僅々九十六萬七千本を越えないといふ激減ぶりを見せた。そこで一方支那からは輸入が不引合で其缺乏を補ふことが出来ないうにも不拘一方内地では毎年需要は減ずることもない現状から見ると、このまゝの事情がつゞくならば、やがて桐材が伐採しつゞき大正八、九年の材が目下切出されてゐるが其將來の不安、誠に恐るべきものがあると考へられるのである。かうした現象は獨り桐材のみではないけれども、毎年二千五百萬圓からの需要に應ずべき桐材が今將に不足の聲に脅かされつゝある現状を見て、この際大に桐材の栽培を奨励すると共に、農家があまり目前の相場に支配されないやうに注意する必要があると信ずる。これはひとり桐材のみではない、山林や農作物に共通に考慮すべき點であつて、百姓は投機的に物事を經營しないやうに注意せなくてはならぬ。

### ○日本と土耳其

本年一月以降五ヶ月間の日本品輸入金額百五十萬リラ(リラは二圓二十錢)輸入制限令實施前の一年同期に比して約三割を減じたるも、制限令の行はれてからの昨年比して約八歩を増加してゐる。本年一月以降本邦關係主要綿布の輸入に國別割當制度を採用し邦品最多く影響をうけた事情からみるとこの輸入高は豫想外に大きい、その原

因を考へると、本年一月末日まで第三國へ輸出せる特種土國物産の金額迄、國外割當綿布の制限外輸入を認められた爲一月中に日本綿布の輸入が特に多かつたこと、第二に對日關東州向阿片の輸出が前年に比して著しく増加し之が輸出商はその同額まで國別割當量を越えて日本品を輸入しうる権利を持つこと、この日本綿輸入権利が、土國の綿布商人の間に賣れるので、阿片商は五割位のプレミヤムで綿布商人に賣り渡すから、日本綿布が制限外に輸入される。第三に自由輸入品として國別割當以外の陶磁器や雜貨類は依然として輸入が減少しない。第四に日本でなくて、他の第三國への特種物産の輸出によつて生ずる制限外輸入権利といふものがあつて、この權利で日本品を買入れるものが多い。

かうした日本品の制限外輸入には權利を買うために多額のプレミヤムがあるにも不拘、尙歐洲品の輸入に比べて利益が多い、そこで日本に於て需用がある物産ならば、通常の採算を無視して安價で日本へ賣りたがる。そこで阿片でも、スミルナの棉花でも原價以下を以て日本へオツファするといふ勢である。一九三二年五ヶ月間の對日輸出は三十三萬八千リラであるが、主として阿片である。

何れにしても安價な品物はあらゆる制限を越えて供給されやすいといふ良い實例になる。與へて而して得るといふ方法で、この調子で行けば對日輸出は専ら土國商人の努力殊に對日犧牲によつて漸次好轉する見込が出来てゐる。

## ○世界各國烟草の消費

獨逸では葉卷年消費最近三ヶ年に於て七十一億五千萬本より五十六億四千萬本に減少、一人當り八十七本(一九三二)其紙卷烟草は三百十七億本に増加し刻烟草では一九三〇年に比し五百萬疋の減少となつた。

和蘭は有名な喫烟國で一九三二年に葉卷十三億五千本、一人當り百七十一本、白耳義では一九三二年に六億一千本一人當り七十五本である。瑞典では二億十萬本、丁抹では二十四萬本、いづれも消費が減少した。佛國の如き一人當り八本位であり、西班牙では三億千七百萬本、致須國では二億千八百本、いづれも前年よりは減少してゐる。紙卷烟草の消費は左の如し

一九三二年度

白耳義	五、九八(十億本)	一人當り	七三九本
致須	一一、三六		七七二
ブルガリヤ	三、五一		五七八
ギリシヤ	三、八四		六〇一
オランダ	三、六五		四六一
スペイン	七、六〇		
瑞典	二、〇七		

刻烟草では和蘭・致須・瑞典・ダンチヒ等で消費量の増加を見たが獨逸・スペイン・ユーゴスラビヤでは減じた、但し我國での刻烟草は六百四十萬貫餘を烟にする。

我國では一九三二年葉卷の消費四十七億二千本で一人當り

三十八本、紙卷烟草は千三十六億本、一人當り八百四十四本である。加奈陀では一億三千本の葉卷に減じ紙卷は三十七億一千萬本一人當り三百五十八本に減じ、刻烟草も減少した。智利では五百五十三萬本から紙卷消費量二億四千三百萬包、刻九百四十萬包へ増加したが、世界的に葉卷消費が減少したためフィリッピンの葉卷輸出が一九三〇年の四億千四百萬本から一九三二年の一億七千二百萬本に減少した。

上海は支那に於ける烟草工業の重要地であるが、一九三二年同地の紙卷製造高は二十一億六千萬本で、その烟草にはラムやアナナスや、サツカリン等を混入して甘味をつけてゐる印度では一九三二年に三億六百萬本の英國製葉卷が輸入された。我國の烟草は例年と大差なく、昭和七年の專賣局烟草賣上高は二億六千萬圓に上つてゐるが、紙卷烟草の總數は約三百億萬本であるから、一人當り消費四百本内外と見られる。又葉卷は百六十萬本だからオランダ・ベルギーの愛烟國には及びもつかない、結構なことだと思ふ。

## ○黄河下流水害狀況

昭和八年八月二十四日天津領事館よりの報告を見るに、黄河下流は其後水勢益々膨脹し被害區域は河南・河北・山東の三十餘縣に及び山東省にては荷澤・鎮野等八縣殊に甚敷山東省内丈にても救出を要するもの二百萬餘人あり、近日の雨にて長清濰口も危險に瀕せる爲、二十日韓復榘は自身視察を爲すと共に、二十三日軍隊四ヶ營を深

口に派遣し河務局と協力警戒につとめつゝありと云ふ。蓋しこの黄河の氾濫は古代の漢時宣防の水害をはじめ、明代の張秋の決潰等を想起せしむるもので勿論小規模であるらしいが、河床が平地よりも高くなるために、堤防がきれると一面の泥水がこれを埋める結果となる。本文濼口は筆者も昔て宿泊した黄河畔にある濟南の河港であるが、こゝでは濼口市街及濟南、いづれも黄河の河床面より五六尺は低いから、もしこの堤防が破れたら大河が小清河を奪つて東流することになるであらう。(藤田)

### ○伊太利の鑛産

伊太利での鑛物産地の第一はサルジニ

ヤ島である。鉛・錫・銀・アンチモニーを産し又鐵山や銅山もある。イグレシエンテの褐炭及ヌオーロ地方の無烟炭も有名である。シチリヤ島には主要産物たる硫黄坑數百六十にも達し外に豊富なるアスファルト・性岩石がある。トスカナ州からエルバ島にかけて鐵鑛がでるが、エルバは全國産鐵の八割をしめ、モンテ・アマアータ及イドリヤの水銀は世界第二位の産額をしめす。又水銀の外に褐炭・硫化鐵が出る。ピエモンテ州からは鐵鑛石・硫化鐵・石墨・泥灰石・褐炭・錫・銅を産し、ウエネチヤ地方から多量の鐵礬土・水銀・鉛・褐炭を産する。バルマ及ビヤチエンツァ地方からは漸増的に石油を産出、ロンバルチヤからは錫と石綿を産出する。リグリヤ州には硫化鐵とマンガンがある。右の中水銀と硫黄は世界第二位、輸出鐵

物は硫黄・水銀・硫化鐵・鐵鑛石・滑石・石綿・大理石等で、一九三〇年には輸出三億リラに達した。

### ○致須國の硝子工業

ボヘミヤで初て硝子の製造が行

はれたのは十一世紀であり、十四世紀末には六工場があり主としてカプロンツ・ツルノヴ(ボヘミヤの東北山地にて現に硝子工業の中心地)に存在した。十六世になつて三十四工場に増加し、曇・ランプ・シャンデリヤ・レットルト。鏡・捺色硝子・圓形窓硝子・クリスタルグラス・鉛硝子・鍍金等の優良品をつつた。そこで十七世紀以後ボヘミヤのガラスは優秀品として世界に供給された。大戦のため一時衰微したけれどもチエツコスロヴァキヤ獨立以來再び勃興し一九二九年の輸出額は十三億七千八百萬冠に上つた。

現今主な製品は、琺瑯ガラス・型入ガラス・板ガラス・窓ガラス・鏡用ガラス・曇・着色硝子・イルミネーション用硝子・球形容器・硝子球・プリズム・化學實驗用ガラス・波型硝子・堅溝型ガラス・寫眞用ガラス・時計用ガラス・球數玉・模造寶石・ボタン・腕環・頸飾等カプロンツ製造品である。

本工業は目下極めて不況で百二十工場の中四十七工場は閉鎖され、残りも僅に短期作業をなし居るにすぎず、三萬の職工の大半は失業してゐる。

一九三二年一月以降十ヶ月間の輸出額は四億八千二百六十萬冠で、全年を通じて六億を超えざるべく一九二九年の半に

も達しないと考へられる。しかしこの品の硝子の世界的なることは英・米をはじめ世界各國に亘つてゐる、が目下のやうに各國で爲替及取引制限が行はれてゐる以上改善を見ることは出来がたいであらう。

### ○波蘭クチニア港の發展

ポーランドの貿易港といへば、ウイステチュラ川の河谷所謂ポーランド廊下の海港ダンチヒによつて行はれるのであるが、ダンチヒは自由市であつてポーランドの行政管理に入らない、そこでポーランドは同じダンチヒ灣に臨んで自國領土のクチニア港を建設するに至つた。そこでダンチヒ人口二十二萬三千の港市に對し、僅に一萬内外の港市として之と競争をはじめたところ、爾來同國政府が全力をつくして其設備を改善したゝめに着々として健全な發達をとげ、一九三二年の同港出入船舶はダンチヒをしのぎ、バルチック海諸港中の第一位を占めるに至つた（世界商業交通地理四四九頁参照）。今ポーランド統計局の比較表をあげる。

クチニア	二、八三三、〇〇〇噸	ダリ	ガ	七、七〇〇、〇〇〇
ダンチヒ	二、七五〇、〇〇〇	(レヴァル)		七、四〇〇、〇〇〇
ストックホルム	二、五五〇、〇〇〇	ケイニヒ		六、六〇〇、〇〇〇
ステツチン	一、七五五、〇〇〇	スベルヒ		五、九〇〇、〇〇〇
ロストク	一、四三〇、〇〇〇	リユーベック		五、九〇〇、〇〇〇
ヘルシング	一、五二二、〇〇〇	ミーメル		五、〇〇〇、〇〇〇
フオルス		リパウ		三、三〇〇、〇〇〇

右の通りクチニアの出入船舶は附近第一の成績である。レンジグラーの統計がないからこれを以て直ちにバルチック第一といへないと考ふる人もあると信するけれども、一九三二年のクチニアと一九一三年（即大戦前）のペテルスブルクの統計を見るに三對二にて明にクチニアが優勢であるからクチニアはソヴィエトロシアの首港よりも遙に發展してゐるのである

### ○世界棉花耕作面積と其生産額

耕作面積合計は全世界の八割を占め、米國は印度に二倍する支那以外の耕作面積は全世界で見積約七千二百萬乃至八千二百萬英町にして支那の棉花耕作面積約八百萬英町を加ふるときは八千萬乃至九千萬英町となる。英・印・支の三國を除きて百萬英町以上を有する國は露・埃及・ブラジルの三國で、ウガンダ・トルコ・メキシコ・朝鮮・アルゼンチン・スーダン・ペルシは七十萬以下三十萬英町に過ぎない。こゝ數年間米國でも印度でも耕作面積は擴張せず而して一九三一—三二年度には其面積却つて前六年前よりも減少した。其間に最近著しく發展した二流以下の諸國があつても、其増加面積合計は全體に對して著しきものではなかつた。その二流の國々は露國が棉花耕地を三倍以上に、アルゼンチン・ブラジル・トルコ及スーダンで五割から十割まで増加した。英領印度の外に南東アフリカ・英領西印度・キプロス・セイロン及濠洲に少々棉花が出るけれども其總面積は印度のそれに比して僅小である。全體

として英國は支那以外の棉耕作面積の三割を占める。一英町當りの生産歩合は國によりて違ふから面積の大小は必しも生産の指數にはならない、埃及では一英町四百封度以上であるが米國では百六十封度、印度では八十五封度といふ數があるからである。印度の歩合がかやうに少いから英國全體の作付面積は三割であつても、其生産は二割に過ぎない。

耕作面積 (一九三二年)

印度	三、七〇〇,〇〇〇英町	露國	五、四〇〇,〇〇〇
ウガンダ	九〇〇,〇〇〇	埃及	二、一〇〇,〇〇〇
スーダン	四〇〇,〇〇〇	ブラジル	一、六〇〇,〇〇〇
其他	一〇〇,〇〇〇	其他	四、四〇〇,〇〇〇
米國	四、七〇〇,〇〇〇	全世界	六、三〇〇,〇〇〇
棉花生産額 (一九三二年)			
印度	七六、〇〇〇噸	埃及	二四、〇〇〇
ウガンダ	三五、〇〇〇	ブラジル	一九、〇〇〇
スーダン	四四、〇〇〇	メキシコ	四四、〇〇〇
其他	七、〇〇〇	ペルー	四、〇〇〇
米國	三、六八、〇〇〇	朝鮮	三、〇〇〇
露國	三、九一、〇〇〇	アルゼンチン	三、〇〇〇
トルコ	一、二〇〇	其他	四、七〇〇
合計	五、四三、〇〇〇		

戦前五ヶ年間は米國は世界棉花貿易額の七割を供給した。戦後同國の輸出は減少し五割七分になつた。一方印度の輸出は着實に増進し一九一三年一割五分が一九三〇年に二割七分になつた。一九三一年には米棉の輸出増進、印棉減少となり一九三二年に印棉は輸出半減となつた。これは生産減少と米棉安のためであつた。故に現在でも米國では棉花は重要輸出品であり、印度・埃及・スーダン・ウガンダの輸出は他の諸商品を凌駕し、埃及では全貿易輸出の八割を占める。印度の棉は全輸出の五分一、米又は茶の約二倍の金額になる。支那では棉花輸出は極めて尠く全貿易の四分にしかならない。印棉不買の印度に對する影響は大きい所以がわかる。

實は戦前では英國は世界第一の棉花輸入國、獨逸は其半額を輸入して第二位、フランスこれについだ。處か日本は今日英國と競争するに至り一九三二年、英國五五九、〇〇〇噸日本七五二、〇〇〇噸となつて、世界第一位の輸入國になつた。米國は自國産棉花の消費國であつて一九三〇年に一、四三六、〇〇〇噸を用ひ、日英兩國の合計よりも大きい。但し日本の輸入する優良棉花の割合は輕く、主として印度棉を輸入して今日に及んだものであつた。

○享保以後の地理關係出版書目 大阪 (十)

書名 作者 板元 賣 弘 出願許可

増補 大坂町鑑 一冊 豊田宇左衛門(南米屋町) 明治二年十一月十七日

改正 河内國細見圖 折本一冊 (故人) 曉晴翁(福井町) 河内屋喜兵衛 明治二年十二月二十日

補關再板願出 北久太郎町五丁目) (北久太郎町五丁目) 河内屋喜兵衛 明治三年八月二十五日

地方大概 前編 上軼四冊 加藤治郎兵衛(播州網干) 右同人 河内屋喜兵衛 明治四年正月

同編 下軼五冊 全十七冊 井上廉平 尾州名古屋 秋田屋市兵衛(鋤屋町) 明治四年四月五日

世界風俗往來 一冊 中金正衡(伊豫石鐵) 非上廉平 尾州名古屋 秋田屋市兵衛(鋤屋町) 明治五年二月三十日

【附記】 本書板行出願の文中には「右之書は五大州土地の廣狭人口の多寡風俗の異同政本の得失等を概著し兒女手習の手に可相成書にて」と書添へあり。

懷中必携 彩色入銅版 一枚摺 吉古樹正太郎(東大組第十區今橋通一丁目) 梶田喜藏(東大組第十九區本田通四丁目六九) 最初出願の文中には「右の書は御改正の御國旗を上段とし府縣名目を中段とし下段に全國の圖を顯はし候書にて」と書添へあり。

【附記】 三府沿革概言 中本 一冊 石村貞章(大坂府出仕) 書林會社 土町通四丁目) 總代石田和助 明治五年八月

【附記】 本書板行出願の文中には「右之書は三都府往昔より今日御盛代に到る迄の沿革を記載仕候書にて」と書添へあり。

日本地理往來 一冊 半紙本 梶木正太郎(東大組第十二區今橋通一丁目第五番) 書林會社 (東大組第十九區) 明治五年八月

【附記】 本書板行出願文中には「右之書は本朝國內山川海島地理を幼童の諷誦に仕候書にて」と書添へあり。

鑄大阪市中區分細見圖 鳥 有三 書籍會社 總代淺井 明治六年六月

新刻世界全圖

鋼板折本

關藤成緒(文部省十等出仕)

書林會社 總代

明治五年九月

航海世界全圖

鋼板折本

關藤成緒(文部省十等出仕)

書林會社 總代

明治五年九月

萬國掌覽

一枚摺

山本與助

山本與七

明治五年九月

〔附記〕

本書板行出願の文中には「右の書は西曆一千八百七十一年英國ヘルマンベルゴースの著書を翻譯し加ふるに皇國の

〔附記〕

〔附記〕

〔附記〕

明治五年十月

縣管轄一覽

一冊

小西松三(備中小田縣第二大區小十四區四百十九番屋敷)

書籍會社

明治五年十月

五大洲國名盡

半紙本

外川秀次郎(東大組第十九區南本町三丁目)

右同人

明治五年十月

世界郡都往來

歐佛の部

小林謹吉(備中倉敷)

小島伊兵衛(東大組第二十區南久寶寺町四丁目)

明治六年一月

〔附記〕

本書板行出願の文中には「右之書は原本一千八百七十年佛人ユルタン・ヘン氏の地理書を翻譯仕候書にて」と書添へ

あり。

川邊新七(南大組第十區大寶寺町東之町)

明治六年三月六日

鐵道

扇面摺

柳原喜兵衛

柳原喜兵衛

明治六年三月六日

〔附記〕

本書板行出願の文中には「右は東京高輪鐵道に汽車往返之圖を摹し候扇面摺にて」と書添へ

あり。

〔附記〕

明治六年三月十六日

世界の大略

半紙本

萩田長三

大野木市兵衛

明治六年四月六日

〔附記〕

本書板行出願の文中には「右の書は世界五大洲の國名及び人口並に其事情を文章に綴り習字に記載仕候書にて」と書添へ

あり。

前川善兵衛

明治六年四月六日

皇國産物往來

半紙本

二冊

前川善兵衛

明治六年四月六日

銅天坂築港

扇面摺

書籍會社

書籍會社

明治六年四月六日

開化地方往來

半紙本

一冊

小西松三

明治六年四月六日

大日本郡名盡

半紙本

一冊

小田縣管下備後福山

明治六年五月六日

地球四字經

一冊

横尾謙七

三木平兵衛

明治六年六月六日

〔附記〕

本書板行出願の文中には「右の書は乾坤郡府土産有名人等を四字文に記載仕候書にて」書添へ

あり。

明治六年六月六日